

セテス姫の物語



S. Pakiene

人自だ姫しス策とだしけとたのによテた
の。とスまテ散こるだけとたのによテた
りた。こテしセをなびびとスでこよないセし
彫るセ涙い街ん浴喜こテびうのらて、増
木で喋も、ない、どをでうセ喜い泉知っそ
は、の。でび、きり、は、風けいもとはをよっ
姫。たん。それ喜でたり、は、風けいもとはをよっ
スなまはととをスしれいのでとある言ことい
テにき后ここりテまささのにそきださは、
セとでとたく乗セめらこぶ誰こにそき、尽ん賢
ら、こが王っ歩遠のた。止照こ喜は、「こき、死と
かきこす。えは、馬のた。受けにがらは、「こき、死と
とき生くまみ后てしまで、自分かとは、「こき、死と
とて動きよといて喜んで、自底こは、さとらした。
そのしはでが王抱りし喜び、心べスらこんで、
形分けの心た。姫しをもけいまで、しゃテばこんで、
よ

ちたら、でいにとまこさ目し
が。かののののしなわのま
さ。国。い目。そ。国。く。う。う。ス。い
わ。隣。と。い。は。隣。つ。よ。う。う。ス。い
う。ある。黒。后。は。あ。む。は。ガ。に
の。ある。黒。后。は。あ。む。は。ガ。に
賊。で。く。黒。髪。王。こ。備。を。ス。な。と
盗。国。で。く。黒。髪。王。こ。備。を。ス。な。と
で。た。っ。黒。髪。王。こ。備。を。ス。な。と
い。れ。や。は。し。隣。の。衣。セ。の
か。荒。が。領。ま。し。隣。の。衣。セ。の
ざ。い。賊。首。い。が。ざ。穀。し。に。ら
国。し。盗。賊。の。い。た。国。に。で。び。光
ろ。貧。て。盗。賊。と。し。は。隣。に。た。と
この。め。盗。賊。と。し。は。隣。に。た。と
その。を。た。あ。め。す。が。し。ら
ま。富。し。男。心。で。た。は。耳。ぎ

も月后じ、いとどは明ま
にヶと信らとは形のきや
だ一王とひた。姿人の嘆あ
いとるをたのの嘆晩の
あ一年たえ会会し姫りに三
る一し会宴まス彫き日た
いでまに大りテ木嘆三分
て日き姫きなセ。どは、自
い一がス招に、た。んは、く
嘆ときテもりと、し。こりや
にあとセ者入るで。たりや
き、うのるおみんで。ふ。う
嘆き、いのるおみんで。ふ。う
がゆと生病床めてせした。く、
姫れ、そもお覚ありませんでした。
ス流る、こ者、目ありませんでした。
テは過ぎ日いいち、もあせであげとり
セ々過明しいち、もあせであげとり
日が過明しいち、もあせであげとり

なく盗て、いひりた。
がいた。をわつ木彫りました。
ちまなまいた。木彫りました。
たき僧のには、木彫りました。
賊は僧の胸にありました。
盗れは、今と胸にありました。
から流は、今と胸にありました。
かさが、今と胸にありました。
いさは、今と胸にありました。
かわ男は、今と胸にありました。
ざうたゆりの人形は、セテス、
国うたゆりの人形は、セテス、
やがと領愛するといつた。
なつた首を愛するといつた。

セテス姫の物語一七十二宮物語より一

<http://p.booklog.jp/book/41064>

著者：佐々宝砂

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/pakiene/profile>

使用素材

表紙：ボーデ古星図よりさそり座

テクスチャ：<http://www.flickr.com/photos/bittbox/2118265369/in/set-72157603866982772/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41064>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41064>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.